

平成19年度北陸ブロック大豆現地検討会開催要領

1 趣旨

平成19年産から導入された品目横断的経営安定対策において、意欲と能力のある担い手による大豆の安定生産を確保するためには、基本技術の励行のみならず、新たな安定生産技術や省力化技術の導入により、単収の向上や生産の安定化等を推進し、担い手の更なる経営発展を促進する必要がある。

しかしながら、北陸管内の大豆生産については重粘土壌の水田転換畑が多く、湿害による出芽不良、初期生育の遅れ等による大豆の生育阻害が問題となっている。

この湿害を回避するため、高生産性地域輪作システム実証事業の中で、北陸研究センターの開発した「耕うん同時畝立て播種技術」の実証及び普及を行っている。また、当技術以外にも、北陸では各地域の気象条件・土壌条件に応じた大豆生産新技術が開発されている。

今回、本実証事業を行っている石川県中能登地区（実施主体：能登わかば農業協同組合）において現地検討会を開催し、新技術の実演及び大豆の収量及び品質向上についての検討を行う。

2 日時

平成19年7月24日（火） 13:30～16:30
（現地調査）13:30～14:30
（検討会）14:50～16:30

3 場所

（現地調査）石川県鹿島郡中能登町能登部上 現地ほ場

（検討会）石川県鹿島郡中能登町「カルチャーセンター飛翔」学習室
（石川県鹿島郡中能登町能登部下 134部1番地 TEL0767-72-4555）

4 内容

（現地調査）

（1）耕うん同時畝立て播種技術実証ほの現地調査

（2）新技術の実演（予定）

耕うん同時畝立て播種技術（北陸研究センター）

ツーウェイロータリによる耕起・施肥播種技術（福井県農業試験場）

畝立同時播種機（株）イセキ北陸）

ダイレクトシーダーによる狭畦密植栽培技術

（松山(株)、実演は(株)イセキ北陸）

（検討会）

（1）現地検討及び新技術について

（2）大豆しわ粒発生防止のための栽培管理技術について

（3）GAP、カドミウム対策について

（4）その他

5 主催者 北陸農政局、北陸産大豆振興協議会、（社）全国農業改良普及支援協会

6 参集範囲

県（行政、試験研究機関、普及指導担当者）、全農県本部（新潟、富山、石川）、福井県経済連、中央農業総合研究センター北陸研究センター、高生産性地域輪作システム実証事業地区担当者、農業機械メーカー、北陸産大豆振興協議会、生産者（現地調査に限る）、北陸農政局



平成19年 6月26日

大豆生産新技術の実演について

北陸管内の大豆生産については、重粘土壌の水田転換畑が多いことから、湿害による生育阻害が問題となっています。

この湿害を回避する技術を確立するため、石川県中能登町のほ場において、国の直接採択事業（実施主体：能登わかば農業協同組合）により、（独）中央農業総合研究センター北陸研究センターの開発した「耕うん同時畝立て播種技術」の実証を行っています。また、当技術以外にも、北陸では各地域の気象条件・土壌条件に応じた大豆生産新技術が開発されております。

この度、北陸ブロック大豆現地検討会の開催に合わせ、耕うん同時畝立て播種技術実証ほの生育状況調査とこれら新技術の実演を下記のとおり行いますので、お知らせします。

記

- 1 日時：平成19年 7月24日（火）13:30～14:30
- 2 場所（新技術の実演場所）
石川県鹿島郡中能登町現地ほ場（中能登町能登部上）
（注）地図は別紙参照。駐車場はございませんので、ご留意願います。
- 3 内容
 - (1)耕うん同時畝立て播種実証ほの生育状況調査
 - (2)新技術の実演（予定）
 - 耕うん同時畝立て播種技術（北陸研究センター）
 - ツウエイターによる耕うん・施肥・播種同時作業技術（福井県農業試験場）
 - 畝立同時播種技術（（株）イセキ北陸）
 - ダイレクトシーダーによる狭畦密植栽培技術
- 4 参集範囲
当日、現地までお越しいただければどなたでもご覧いただけます。



【問い合わせ先】

北陸農政局生産経営流通部農産課豆類振興係
担当：北
電話：076-263-2161（内線3318）

(参考) 実演 (予定) 技術のご紹介

耕うん同時畝立て播種技術

(北陸研究センター)

改良型アップカッターロータリーにより碎土性の向上、耕うんと播種の同時作業による乾燥害と降雨リスクの回避・作業能率の向上・安定発芽、畝立て栽培による湿害回避の効果が得られます。



ツーウェイロータリーによる耕起・施肥・播種同時作業技術

(福井県農業試験場・(株)小橋工業)

改良ロータリーにより、1回の耕うんで深耕(15cm以上)、わらのすき込みが行われ、碎土も良好になることから、作業能率が向上し、大豆の生育が安定します。



大豆専用ロータリー「お凸っあん」による畝立同時播種技術

(株)イセキ北陸)

一行程で細土、整地、播種床整形、側条施肥、播種、培土排水作業ができ、大豆播種床を凸型にすることで、水湿害の大豆播種時における発芽不良が解消できます。



ダイレクトシーダーによる狭畦密植栽培技術

大型鎮圧ローラーにより、土付きが少なく、安定した作業が実施できます。

また、鎮圧効果が高いため、毛管水現象が発生しやすく、高い発芽率が確保できます。



(上記の技術内容の説明は、メーカー等のパンフレット等から一部抜粋したものです。)

(別紙：実演場所地図)



↑
拡大図

